［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	（※評価機関で記入）4675200168
法人名	特定非営利活動法人　新生活環境研究所
事業所名	グループホーム　明倫館
所在地	姶良郡加治木町木田1133番地 （電　話）0995-62-5651

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5　前田ビル1F
訪問調査日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(21年　3月　12日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	平成　14 年　4 月　8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	18　人	常勤 12 人，非常勤　6 人，常勤換算 13.325 人	

（2）建物概要

建物構造	木造　造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	28,800　円		その他の経費（月額）	実費
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000　円		

（4）利用者の概要（　3月　12日現在）

利用者人数	18 名		男性	1 名	女性　17 名
要介護1	7	名	要介護2	5	名
要介護3	5	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	1	名
年齢	平均	86.15 歳	最低	73　歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大井病院・山中歯科・加治木中央クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に位置し、病院が多い地域に建つ。2つのユニット間は可動式の仕切りがあり、イベント時には開放され、広いホールは利用者同士や地域の知人との交流に役立っている。昨年12月に旧ホームから現在の地に引っ越した。職員は引っ越し前から移転のシミュレーションを重ね、利用者家族の協力もあり、心配された移転による利用者の混乱はほとんど見られなかった。家族の面会も頻繁で家族会や運営推進会議でも家族の意見等が聞かれ、ホームとの信頼関係ができている。移転間もないが、周辺施設や住民との交流を積極的に図り、地域に根差したグループホームを目指している。さらに、職場の環境作りに力を入れ、女性が働きやすい職場になるように勤務時間などへの配慮が見られる。家庭的な雰囲気で利用者と職員の明るい笑い声と会話が聞かれ、運営者や管理者の熱く語る姿に熱意を感じるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 昨年度の外部評価の結果は家族には郵送し、職員へはミーティングで伝達し、来所者も閲覧できるように玄関に設置している。また、前回評価の災害対策へのアドバイスを新ホームの設計に活かしたり、管理栄養士と連携をはかり食事を楽しむためにきめ細かい助言をもらうなどホームのより良い運営や支援に役立てている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 2ヶ月に1回定期的に開催され、家族代表、町議員、町介護保険係職員、自治会、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 意見箱を設置するとともに、利用開始時に苦情相談窓口について書類を見ながら家族に説明している。さらに、第三者委員を決めたり、家族会では職員は席をはずすなど家族の意見や要望が出しやすいように配慮している。　また、職員が苦情などを把握した時には申し送り簿で他の職員と共有し、速やかな解決を心がけている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会に加入し、散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、公民館の清掃やゴミ当番への参加、　地域の行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、駐車場横に掲示板を立てホーム行事の案内やお知らせなどを掲載したり、介護施設についての相談や問い合わせなどにも気軽に応対するなど、立ち寄りやすいホームを心がけている。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合って作った独自の理念があり、地域に根差したサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で、理念を確認し介護に取り組んでいる。また、理念は玄関や食堂に掲示し、職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、公民館の清掃やゴミ当番への参加、地域の行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。また、駐車場横に掲示板を立てホーム行事の案内やお知らせなどを掲載したり、介護施設についての相談や問い合わせなどにも気軽に応対するなど、立ち寄りやすいホームを心がけている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果は家族には郵送し、職員へはミーティングで伝達し、来所者も閲覧できるように玄関に設置している。また、災害対策のアドバイスを新ホーム設計に活かしたり、管理栄養士と連携をはかり食事を楽しむためにきめ細かい助言をもらっている。今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催され、家族代表、町介護保険係職員、自治会、民生委員などの参加がある。事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などが毎回あり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当窓口へ出向いたり、電話により旧ホームの利用法やなかなか進まない地域包括支援センターとのかかわりについて積極的に相談や情報交換を行っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りと利用者の暮らしぶりを記載したお知らせを毎月郵送し家族に状況を知らせている。職員の異動については面会時や運営推進会議で報告し、金銭管理については面会時に説明し金銭出納簿に確認の押印をもらっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、利用開始時に苦情相談窓口について書類を見ながら家族に説明している。第三者委員を決めたり、家族会では職員は席をはずすなど家族の意見や要望が出しやすいように配慮している。また、職員が苦情などを把握した時には申し送り簿で他の職員と共有し、解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、職員の労働環境の向上に努め、離職を防止するように努力している。異動がある時には引き継ぎ期間を1～3か月間設けるなど十分な情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については積極的に職員に紹介し、勤務の調整や受講費を法人が負担するなどキャリアアップのための職員の支援を行っている。しかし、習熟度に応じた施設内の研修計画はばく然としたもので具体的とはいいがたい。	○	各職員が自らの立場・経験・地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力をつけていけるよう職員と十分に話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づけていく運営面での工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姶良伊佐地区グループホーム協議会に加入し、他のホームを訪問し、講義のみでなく介護技術のより実践的で意義のある研修機会の確保を行うとともに職員の交流をはかっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が出向いて自宅の様子を確認したり、見学や体験訪問でより安心して入居できるように工夫している。施設からの入居の場合は担当者との連携をはかり、サマリーなどをもとに場に馴染めるように気を配っている。また、入居後は家族の訪問を多くしてもらったり、ゆっくり滞在してもらうなどホームの雰囲気に慣れやすいように協力を求め、ともに支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で料理方法など得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを教えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者の話しやすい話題を提供し職員と利用者の会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有をはかっている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	往診時を利用し、主治医も参加した担当者会議を開き、希望や意向を基に話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について少なくとも2ヶ月に1回はモニタリングを行い、変化の兆しがないか確認し、3ヶ月ごとに評価を記録している。入居直後で状況が変化しやすい時期や、生活機能に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、担当者会議を開いて計画の見直しを行い、きめ細かいサービスを提供している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助、入院時は早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の提供など臨機応変に対応している。また、状況報告を兼ね利用者の家族宅を訪問し独居家族の安否確認を行っている。自治会では認知症について話し啓発に努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、在宅診療計画の契約を結び月に2回の往診を受けるなど健康への支援を行っている。通院介助も行われ、利用者の日頃の状況を主治医や医療担当者に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取り「重度化した場合における介護対応にかかる同意書」が作成され、今年4月に説明し同意が得られている。「看取り介護指針」も作成し、緊急時マニュアルとともに職員に伝達している。		
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報に関する同意書」を作成し個人情報の利用目的を含めて方針を利用者や家族に説明している。また、記録は事務室に保管し外来者の目につかないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	引き継ぎ時に夜間のようすを聞いたうえで、体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。訪問時には髪や服装も各々のスタイルで、化粧をしたり腕時計をつけるなどその人らしい暮らしのようすがうかがえた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、買い物や下ごしらえを一緒にするなど食への興味を持ってもらうよう努めている。利用者と職員がともに食卓を囲み、後片付けも会話をしながらの楽しい食事風景がうかがえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね週に3日の入浴だが、利用者の意向を聞いたり、皮膚の状態により入浴回数を変えている。また、入浴を嫌われる方には個別に対応し、できるだけ声かけを工夫し入浴を楽しめるように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や後片付け、洗濯物たたみ、そうじ、買い物、創作、散歩など利用者一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮している。チェック表を作り出かけることが少ない方を把握し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出の支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室からベランダに出ることができ、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火訓練を年に1回ずつ行っている。緊急時のマニュアルを作成し、地域の方に呼びかけ協力してもらっている。各部屋に1食分程度の食事と水をセットにして設置し非常時には持って出ることになっており、その他にも施設内に食品の備えがある。また、全部屋から出られるベランダがスロープになって外へ脱出できるようにするなど昨年の外部評価での話し合いを参考にした経緯がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や必要と判断した方の水分摂取量は個人別の記録に毎日記録しケアに活かされている。管理栄養士の指導を受けながら、糖尿病の方のコントロール食も取り入れているが、ほかの利用者の食事と外見上はあまり差がない食事で生活の質を保っている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花や利用者の作品や写真が飾られ、テーブルやソファーで利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。外の共有スペースにも椅子が置かれ戸外でも会話を楽しんだり季節感を楽しんだり五感に刺激を受ける機会を増やすように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には椅子、テレビ、テーブル、タンス、布団など個人のものが持ち込まれていたり、写真やお便りなどが飾られていたり、居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		